

「ライトアート in 折立」

折立市民センター×
青葉区中央市民センター

1 事業概要

平成28年度から活動している折立素敵物語実行委員会では、折立学区の立体地形模型などを制作し、折立小学校へそれらを使って毎年出前授業を実施するなど、若い世代にも地域に関心を持ってもらえるよう活動を行ってきました。

令和元年度には折立小学校6年生の授業「町の幸福論」で発表された小学生のアイデアから、地域活性化を目的として、折立公園で光をモチーフにしたイベント「ライトアート in 折立」が初めて開催されました。今年度で3回目を迎え、折立地域の冬の風物詩として定着しつつあります。



2 今年度の活動



今年度は7月から「ライトアート in 折立運営委員会」が立ち上がり、12月のイベントに向けた準備が始まりました。会場の装飾にはこれまでのペットボトルランタン・イルミネーションライトでの装飾に加え、新たに「ピカボード（LED発光ボード）」の制作に挑戦しました。折立地域に関するキャラクターなどを描いた作品の他、開校50周年の節目を迎えた折立小学校の全校児童が制作に携わり、ピカボードで感謝のメッセージを表しました。

また、運営委員会とは別に、令和元年度に「ライトアート in 折立」を提案した子ども達を含めた、折立中学校の生徒が企画員として集まり、イベントをさらに盛り上げるためのアイデアを出し合い、準備を重ねて、ミニランタン作りワークショップとクイズラリーを実施しました。

3 成果と課題

イベント当日は、昨年を大幅に超える約1,200人の来場者があり、700本以上のランタンの灯りや、公園内の池に映るイルミネーションの光に感動の声が上がっていました。家族と訪れた小学生は自分たちが制作したピカボードをバックに記念撮影をしたり、中学生企画のワークショップやクイズラリーにも大勢の子ども達が参加したりと、会場の至る所で世代を超えた交流が見られました。



回を増すごとに新たな企画や連携が生まれ、イベントの規模も大きくなっていますが、会場や駐車場のスペースに限りがあることから、今後は警備を強化するなど安全面への配慮が求められます。

また、地域住民による運営委員会のメンバーは高齢者が多く、イベントの準備や夜間の後片付けに体力的な不安もあるため、若い世代の住民の参加を促していくことが急務となっています。

4 今後の展望

今回、折立小学校と連携してピカボードの制作を行ったことにより、多くの家族連れが来場したことや、中学生企画員が活躍した様子を小学校の校内放送や中学校の集会で発表し、子ども達の事業に対する関心が深まりました。来年度以降も学校との連携を継続し、子どものアイデアを地域の大人が具現化していく流れを作り、幅広い年代の地域住民が一体となって取り組んでいきたいと思っております。

